

acty

アクティ



【9月号ラインナップ】

- 特集1 「豊橋市お互いさまのまちづくり協議会」の取り組み
- 特集2 豊橋のおじいちゃん、おばあちゃん。
- お知らせ 生涯現役相談窓口“ちょいたす”
- お知らせ とよはし長寿番付／支え合い活動参加者保険

支え合い活動を推進する

「豊橋市お互いさまのまちづくり協議会」の取り組み

豊橋市では、誰もが住み慣れた地域でいきいきと暮らしていけるよう、互助を基本とした生活支援サービスの創出に向けた取り組みを推進するため、「お互いさまのまちづくり協議会」を設置しています。今回は、その取り組みや協議会委員さんの声を取材しました。

※令和4年度第1回お互いさまのまちづくり協議会の様子



お互いさまの まちづくり協議会の 取り組み

豊橋市では、誰もが気軽に集うことができる「まちの居場所」と、買い物や草取りなどの日常生活を支援する「助け合い活動」といった「支え合い活動」が

盛んに行われています。支え合い活動団体は年々増え、現在把握しているだけでも120団体近くあり、地域住民一人ひとりができることを持ち寄ることで地域の課題を解決できることもあります。それら地域住民同士が支え合う地域づくりを「お互いさまのまちづくり」と呼び、その「お互いさまのまちづくり」推進の要として「お互いさまのまちづくり協議会（以下「協議会」という。）」が設置されています。

協議会の概要は、

(1) お互いさまのまちづくりに関する方針策定、目標設定及び進捗管理

(2) お互いさまのまちづくりに向けた関係団体への協力量議

(3) その他必要な情報収集、課題の把握
となっております。

協議会は、自治連合会、老人クラブ連合会、民生委員児童委員

協議会、シルバー人材センター、社会福祉協議会、地域包括支援センター、生活支援コーディネーター連絡会、学識経験者、支え合い活動者、豊橋市で構成されており、連携を取りながらそれぞれの強みを出し合ってお互いさまのまちづくりを進めています。

協議会では、平成29年に具体的な取り組み内容や目標を定めた「お互いさまのまちづくりアクションプラン」を策定しました。令和3年には第2期アクションプランを策定し、令和3年度から8年度までの6年間に支え合い活動団体を55団体創出することを目標に据え、「認知度向上」「担い手創出」「活動応援」の3つのプランを掲げています。主に出前講座や立ち上げ・活動継続相談の対応など多様な取り組みによる、支え合い活動の認知度の向上と、支え合い活動団体の新設を実現しています。さらには、活動者交流会の実

※支え合い活動55団体創出に向けてのアクションプラン



施をはじめ、支え合い活動参加者保険の創設、お互いさまのまちづくりネットワークの運営、「コロナ禍における支え合い活動団体 活動継続の手引き」の作成などを行い、活動者同士をつながりを深め活動を継続しやすい環境整備も進めてきました。これらの取り組みが成果を上げ、令和3年度は新たに7箇所の支え合い活動団体が創出されました。

今年度は若者を交えた多世代交流を検討

協議会は、各構成団体より選任された委員等15名によって組織されています。委員による会議は年3回程度開かれます。7月12日(火)、豊橋市役所会議室にて令和4年度第1回協議会が行われました。協議会が掲げる「認知度向上」と「担い手創出」の施策として、持続可能な地域づくりを進める上での若者の力の活用方法が検討されています。具体的には、協議会に市内3大学の学生を招へいし、多

関係団体等が一体となって推進・支援

豊橋市お互いさまのまちづくり協議会

- 自治連合会
- 民生委員児童委員協議会
- 老人クラブ連合会
- シルバー人材センター
- 社会福祉協議会
- 地域包括支援センター
- 豊橋市生活支援コーディネーター連絡会
- 学識経験者
- 支え合い活動者
- 豊橋市

世代交流について議論する多世代交流検討会(仮称)を実施することが決まりました。会議では、実施するにあたっての課題や検討事項について、各委員が多方面から意見を述べました。子育て支援、高齢者福祉の双方からみて、子ども、若者、高齢者の多世代が交流する場をいかにして設けるかが議題案に上がりました。若いうちから助け合いの場に触れる機会を作ること、SNSなど若者が得意とする分野を活かすことにも触れ、少子高齢化を幅広い世代で考えられる地域を目指します。

さらに、多世代交流検討会で出た意見や結論をいかに形として残すか、会議の継続性についても話し合われました。

★今秋開催予定の多世代交流検討会(仮称)の様子は本誌次号で紹介予定です。



※支え合い活動者交流会の様子



※大学生に向けた出前講座の様子

豊橋市お互いさま のまちづくり

協議会委員さんを

ご紹介！

支え合い活動の普及に向けた普段の活動内容や、協議会の意義・目標などをお伺いしました。



協議会会長 榎村愛子さん
愛知大学文学部 人文社会学科 社会学専攻教授

愛知大学の榎村教授は、日本社会学会庶務理事をはじめ豊橋市では男女共同参画審議会会長を務めるなど数々の学外機関で活

動される傍らで、社会問題の把握と実践を志向する臨床社会学

の観点から、学識経験者として

協議会の会長を4年間務められて

います。「高齢社会化が進むにつれて家族だけでの介護は不可

能となり社会的介護が介護保険

制度として二〇〇〇年に導入されました。社会的介護は定着し

てきましたが、財政難から公助

が削減されつつある等の課題も

抱えています。当初からすべての

のサービスが介護保険の対象では

なかったこともあり、また認知

症の増加に伴い地域での見守り

りや防災上の必要が増加し、コミュニティの再構築も視野に入

れた共助の仕組みの構築が目指されています。豊橋市では目標

要件を話してくれました。

国の重要政策となっている高

齢者の孤独・孤立対策にも目を向

け、「ライフイベントによる生活

の変化において地域と関わり地

域が支えていくニーズがありま

すが、いわゆる『地域デビュー』

課題については、地域の側からの

アウトリーチや参加しやすい場

の設計が必要だと思えます。ま

た『お互いさまのまちづくり』は

長寿介護課の管轄で高齢者を対

象としてきましたが、多世代の

取り組みも視野に入れつつあり、今後縦割りを打開する横断

的交流は若者にとっても多様な

大人と出会える重要な教育の場

ですし、若者に「コミュニティのあ

り方について考えてもらえる場

となると思います」と、今後の多

世代交流の意義を語ってくれま

した。



協議会委員 朝倉博子さん
豊橋市南部地域
包括支援センター職員

やしてきましたし支え手の交流活動も盛んです。公助も入れていくと共に多様で包括的な社会を作っていく観点が必要です」とお互いさまのまちづくりの必

朝倉さんが勤務する地域包括支援センターは、地域の高齢者が健康で安心して暮らせるように、保健・医療・福祉の面から総合的に支援するための機関です。ケアマネジャーや社会福祉士などの専門職と連携を取りながら、制度の概要説明や相談窓口の紹介、各種予防教室などを行って

います。また、活動を応援するためグループホームや集会所などで行われているサロン活動などで高齢者向けの出前講座を行っており、要望の多いテーマには介護保険や認知症、フレイル（健康と要介護の中間に位置する状態）、脳トレ・運動・お口の健康などがあるそうです。サロンでは地域の障がい者施設や小学生たちに参加を呼びかけ、食事や昔遊び・ゲームで多世代交流を楽しむこともあります。参加者からは

「毎回楽しみにしている」、「子どもの頃のように心の豊かさを取り戻す」などの声がかかれ、支援する側のサポーターさんも協力的で、自身の生きがいにつながっています。

協議会委員4年目の朝倉さんは、「地域のことは地域の方が一番よく知っています。支え合い活動は、独居や閉じこもり、家族が遠方在住などの理由で地域から孤立している方、介護保険で

対応できない軽度者など、本当に困っている方や支援が必要の方に寄り添っています。各方面の関係団体が集まる協議会では、できるだけ実情と現場の声を届けるようにしています。支え合い活動のサポーターの多くは70代。これからはもっと若い世代の支え手が増えるよう、フォロワーアップしながら引き継いでいきたいですね」と、課題と抱負を教えてくださいました。

協議会委員 近藤裕美さん

NPO法人 ぽかぽかの森 副理事長

就労移行支援・就労継続支援B型

Re・born 職業指導員

子育てシェアママサポーター@

東三河チーム代表



近藤さんは塾講師、事務職を経て、介護職員時代に社会福祉士の資格を取得しました。令和2年に「NPO法人 ぽかぽかの森」の副理事長に就任し、認知症になっても住み慣れたまちで安心して暮らせるように、地域の人に正しく認知症を理解してもらうことを目的とした認知症カフェ「アンキカフェ」（神野新田町）を昨年オープンさせました。ワークショップやセミナーなど多彩なイベントを開催し、認知症の当事者のみならず、子どもから高齢者まで多世代が交流する場として賑わっています。就労支援の職業指導員でもある近藤さんは、学校中退・引きこもりなどの理由で就職が困難な方や精神障がいや生きづらさを持った方たちのサポートにも取り組まれ、「コロナ禍で改めて地域や家族の絆の大切さや温もりを感じました」と話します。「とにかく動く」がモットーの近藤さんだか

らこそ困難に直面することも。「支援者という立場でも困った時は人に頼ります。支え合う社会では頼ることに慣れることも大事じゃないかな」と語ります。

本年度から協議会委員になられた近藤さんは「協議会には多世代交流を望む同じ思いの方が多くいることに心強さを感じます。普段接点のない団体の方との出会いは、今後自分の活動にも活きると思います」と、協議会初参加の感想を語り、「高齢者は高齢者でと棲み分けするのではなく、支え合いには普段から多世代交流が必要です。豊橋市のオリジナリティを出せたらいいですね。例えば、学校の授業の中で地域の方に得意な講座を開いていただくなど。子どもたちも楽しいですし、教育現場にもっと地域の方が慣れ親しむことで防災時でも学校に入りやすくなると思います」と、近藤さんの新しい発想に協議会も期待を寄せます。

インタビュー

川澄やすさん(100歳)

百寿を迎えた今も 持ち前の明るさで
暮らしを楽しむ

大正、昭和、平成、令和と変遷する激動の時代をたくましく生き抜いてきた川澄さん。現在は隣に住む娘さん夫婦が一人暮らしの生活をサポートしていますが、70歳代で民謡をはじめると、川澄さんのバイタリティは今でも健在です。

戦争をくぐりぬけ
教師を成し遂げる

大正11年3月、田原市の神職の家に生まれ、7人兄弟の次女として育った川澄さん。

「やっちゃん」の愛称で親しまれ、男勝りで木登りが得意だったというほど、活発な幼少期を過ごしました。学生時代に教師の道を志して愛知高等女子工芸

学校師範科へ進学。卒業後は訓導(正規教員)となり小学校に勤務しました。結婚を機に、退職しましたが非常勤講師として復帰し、ながく務めました。

戦前は皇軍慰問団として2カ月中国に派遣され、兵士に激励



※皇軍慰問団として
派遣された頃の川澄さん



※90歳過ぎまで嗜んだ
民謡の発表会の様子

生記念に
果樹を植
え、様々
野菜を育
ててきた
家庭菜園
も自慢で

の手紙を届け、紙芝居や音楽を披露し労をねぎらったそうです。戦後お見合い結婚し、1男2女を授かりました。ご主人とは生前、一緒に葦毛湿原や奥三河に出かけては、共通の趣味であった山野草巡りを楽しんだそうです。

できることは自分で
やる力が生きる力

若い頃から裁縫や編み物、短歌を嗜み、70代になって民謡をはじめました。「曾孫生まれ私百歳 一世紀笑顔の並ぶ 今日 祝日」は、百歳になられた川澄さんならではの味わい深い短歌です。また、お子さんたちの誕

す。今は収穫した野菜を揃えたり、ポットに種蒔きしたり自分ができることを見つけて、成長を見守っています。現在は健康維持のため、デイサービス、訪問看護、リハビリを利用。スタッフからの「頑張ったね」「また明日ね」の声かけが励みになっていそうです。孫5人、ひ孫6人にとっても自慢のおばあちゃん。百歳の誕生日には、ひ孫が作ったケーキでお祝いしてもらい喜びもひとしお。今では孫との会話や、ひ孫の楽しむ姿を見ることに生きがいを感じています。「好き嫌いなく何でも食べること。毎日家の前を散歩し、移ろう季節の変化を感じる」と、長生きの秘訣も語ってくれました。



※ケーキやメッセージを
囲んで百歳をお祝い

55歳以上のみなさんへ

豊橋市生涯現役促進事業
ちょいたすプロジェクト

もうちょっと

働きたい!

活躍したい!

を応援します



生涯現役相談窓口

“ちょいたす”



「就労」や「地域活動」について相談できる窓口「ちょいたす」をぜひご利用ください。キャリアコンサルタントなどの相談員が、個別にあなたの相談に対応します。

こんな方におすすめ

- 働いてハリのある生活を送りたい。
- ボランティア活動などの地域活動に興味がある。
- 定年後に何をしようか悩んでいる。
- これまで十分仕事をしたので余裕のある働き方をしたい。



ご相談

日時・場所：毎週金曜日 8:30~17:15 豊橋市役所長寿介護課（東館3階）
対象者：豊橋市内在住の**55歳以上**の方
利用料：**無料**

申込み

事前の申込みが必要です。
豊橋市役所長寿介護課へ電話、FAXまたはメールで申し込んでください。



豊橋市役所長寿介護課（東館3階） 電話 **0532-51-2330** FAX **0532-56-3810**

メール choju@city.toyohashi.lg.jp URL <https://www.city.toyohashi.lg.jp/40933.htm>

とよはし長寿番付

ご長寿ベスト5 (令和4年9月1日時点 年齢基準 令和4年12月31日) ※生年月日順

男性

- 1 南栄町……105歳
- 2 牛川通……103歳
- 3 嵩山町……102歳
- 4 飽海町……102歳
- 5 三本木町……102歳

女性

- 1 柱二番町……108歳
- 2 東新町……108歳
- 3 多米中町……108歳
- 4 東赤沢町……107歳
- 5 大村町……107歳

日本人平均寿命

(令和3年時点 参考：厚生労働省)

男性

81.47歳

女性

87.57歳

豊橋に住む100歳以上のご長寿の方 **182**名 (令和4年9月1日時点)

「まちの居場所」参加者などの
事故を補償する保険!

支え合い活動参加者保険

高齢者が気軽に集える「まちの居場所」への参加者や、買い物・草取りなどの日常生活を支援する「助け合い活動」サービスを受けている方などの事故やケガを補償する制度で、**無料で利用**できます(保険料は市が負担)。

安心して
支え合い活動ができます!

お互いさまの
まちづくりが広がります!



支え合い活動参加者保険 給付の内容

支え合い活動参加中、死亡または負傷した場合に保険金が支払われます。

区分	給付上限額	保険適用条件 * 参加する支え合い活動団体が市 (お互いさまのまちづくりネットワ ーク)へ登録していることなど
死亡保険金又は後遺障害保険金	200万円	
入院日額保険金	日額: 3,000円	
通院日額保険金	日額: 2,000円 <small>通院日数を乗じて得た金額</small>	

詳細は、長寿介護課で配布しているパンフレットやホームページをご覧ください。▼お問合せは下記、長寿介護課までどうぞ。

情報をお寄せ ください

本紙ではアクティブシニア向けの情報を募集しています。
地域において元気なシニア層が行っている活動の情報を下記までお寄せください。

問い合わせ先 豊橋市 福祉部 長寿介護課 TEL (0532)51-2359 FAX (0532)56-3810

情報提供方法 専用の情報提供用紙によりFAXまたは郵送等にて送付してください。
豊橋市ホームページ内で情報提供用紙がダウンロードできます。

【ご注意】お寄せいただいた情報は、内容や紙面の都合等により掲載できない場合があります。あらかじめご了承くださいませようお願いします。